

	ゼミナール名	ゼミナールⅢ (経営学ゼミナール)		
	ゼミ担当者名	李 廷珉 (い ちョンミン)		
	科目分類	専門科目群 (第1グループ)		
	開講年次	3年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日3限	単位数	2単位

ゼミのテーマ	就職活動と卒業論文の指導
ゼミの概要	<p>独立行政法人労働政策研究・研修機構の調査によれば、進路が決まらないまま卒業する学生、つまり週活に失敗した学生の特徴として、「就職活動のスタートが遅い」「自分の意見をうまく表現できない」「教員や職員にほとんど相談しない」「何をしたらよいか分からない」など、多く理由があげられている。</p> <p>4年生にとっては、当たり前すぎてつまらないかもしれないが、大学での学びは、高等学校とは違って主体性と積極性が必要である。これは就職活動においても、全く同様に、自ら行動を起こせない学生はスタートから出遅れたまま、選考試験を受ける時期になっても、うまく対応できず、結局内定のないまま卒業を迎える。</p> <p>就職活動に成功するためには、何はともあれ、早く始めることである。ただ、このことは3年生になって直ぐに企業研究や適性検査の対策をするという就職活動ノウハウだけを意味するものではない。1年生、2年生の段階から、将来社会に出て働くことを念頭におき、学生時代を送ることが必要であるということである。</p> <p>また、インターネットからの情報だけに頼り、就職活動を乗り越えようとするのも間違いである。なぜならば、ネット情報をすべて鵜呑みにして方向を間違ってしまう場合も多く、そのような学生は困難に直面しても誰にも相談せずに、自分だけで抱え込み、状況をさらに悪化させてしまう傾向があるからである。</p> <p>人と面と向かって話し合ったり、相談したりすることによって、初めて気付くことや乗り越えられることがあるということをお忘れはならない。</p>
ゼミの到達目標	就職活動の成功と卒業論文の執筆
授業時間外の学習	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日頃から新聞とその他の経済紙に目をとおすようにしておくこと。 2. 経済・経営専門書だけではなく、文学・哲学・歴史・宗教・生物などの科学関連書を1冊だけ選び、時間をかけてじっくり読んでおくこと。
履修条件	経済学と経営学の入門科目、そしてコンピューター入門科目の単位の履修が必要。
テキスト	ロナルド・ドーア『働くということーグローバル化と労働の新しい意味』中公新書、2005年。 伊丹敬之『創造的論文の書き方』有斐閣、2001年。
参考文献・資料	新聞各紙、経済雑誌、経済統計など
成績評価の方法	平常点(20%)、小テスト(30%)、期末試験(50%)を勘案し総合的に評価する。
オフィスアワー	毎週火曜日 13:00~14:30
学生へのメッセージ	<p>「なぜ働くのか、なぜ就職するのか」ーこの問いに答えを見つけれない学生は、就職活動を成功させることは困難です。大学進学の際には、「親の進め」「周囲が進学するから」などという理由もあったでしょうが、就職では働く目的を明確にしないままに就職活動を進めると、選考試験でつまづいてしまいます。途中で、「そもそもどうして働かなければならないのか」といった疑問にとらわれ、挫折してしまうことになります。</p> <p>働く理由は「夢をかなえるため」「生活のため」「お金持ちになるため」など、何でもよいでしょう。明確な目標があれば今何をなすべきかが自ずと分かるようになるでしょう。</p> <p>普段より、こうした点を意識しつつ、働くことの意義について考えることが必要です。</p>

	ゼミナール名	ゼミナールⅢ（財務会計・国際会計論ゼミナール）		
	ゼミ担当者名	國井法夫		
	科目分類	専門科目群（第1グループ）		
	開講年次	4年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日3限	単位数	2単位

ゼミのテーマ	財務会計について金融商品取引法を中心に考える。
ゼミの概要	財務会計に関連する本を読み、毎回、担当者を決めて報告・質疑応答・議論をする。
ゼミの到達目標	大会社の会計を理解する。
授業時間外の学習	資格試験に挑戦してほしい。
履修条件	欠席しないこと。
テキスト	随時指示していく。
参考文献・資料	特になし。
成績評価の方法	授業態度（30%）・学習姿勢（30%）・テスト等（40%）を参考に総合的に評価する。
オフィスアワー	水曜日5時間目
学生へのメッセージ	近年、学生諸君の学習姿勢を見ていると楽をしよう楽をしようという方向に進んでいるように見えます。自分の目指す目標に到達するためには努力なしには到達できません。目標に一步でも近づけるように日々精進してください。このような学習姿勢を評価したいと考えています。

授業計画			
第1回	自己紹介・ゼミの進め方	第17回	第8章有形固定資産と減価償却(1) 資産
第2回	第1章財務会計の機能と制度(1) 会計の意義	第18回	第8章有形固定資産と減価償却(2) 減価償却
第3回	第1章財務会計の機能と制度(2) 会計の機能	第19回	第9章無形固定資産と繰延資産(1) 知的財産
第4回	第2章利益計算の仕組み(1) 簿記の構造	第20回	第9章無形固定資産と繰延資産(2) 繰延資産
第5回	第2章利益計算の仕組み(2) 財務諸表	第21回	第10章負債(1) 範囲と区分
第6回	第3章会計理論と会計基準(1) 会計基準の設定	第22回	第10章負債(2) 引当金
第7回	第3章会計理論と会計基準(2) 一般原則	第23回	第11章株主資本と純資産(1) 構成
第8回	第4章利益測定と資産評価の基礎概念(1) 発生主義	第24回	第11章株主資本と純資産(2) 組織再編
第9回	第4章利益測定と資産評価の基礎概念(2) 資産評価	第25回	第12章財務諸表の作成と公開(1) 体系
第10回	第5章現金預金と有価証券(1) 現金と預金	第26回	第12章財務諸表の作成と公開(2) P/LとB/S
第11回	第5章現金預金と有価証券(2) 有価証券	第27回	第13章連結財務諸表(1) 公表制度
第12回	第6章売上高と売上債権(1) 収益認識基準	第28回	第13章連結財務諸表(2) 一般原則
第13回	第6章売上高と売上債権(2) 販売基準・生産基準	第29回	第13章連結財務諸表(3) 一般基準
第14回	第7章棚卸資産と売上原価(1) 範囲と区分	第30回	第14章外貨建取引等の換算(1) 国際化と会計
第15回	第7章棚卸資産と売上原価(2) 取得原価	第31回	第14章外貨建取引等の換算(2) 外貨建取引
第16回	定期試験	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅢ（世界経済ゼミナール）		
	ゼミ担当者名	坂元 浩一		
	科目分類	専門科目群（第1グループ）		
	開講年次	4年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日1限 6月第3週より開始	単位数	2単位

ゼミのテーマ	世界経済を実践的に学ぶ
ゼミの概要	<p>本ゼミナールでは、マクロ経済学、国際経済学などの基礎を学びながら、世界経済と外国の経済の現状と政策を学びます。必要に応じて、歴史も扱います。具体的なデータを収集して、図表などを作ります。</p> <p>経済学の知識が不十分でも、わかりやすく教授するように努めます。学ぼうという意識を持っていることが重要です。今日の世界経済に影響を与える金融も扱います。</p> <p>講義形式と学生のグループワークからなります。後期では、日本と外国の株の水準を予測する、株ダービーを行う予定です。また、必要に応じて、ディベート大会を行います。</p> <p>地域として、世界経済、地域経済の分析を元に、発展途上国と先進国の経済を扱います。日本経済も分析して、新聞が理解できるようになります。</p>
ゼミの到達目標	世界経済と外国経済をしっかりと理解できるようになります。
授業時間外の学習	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業前にはプリントの該当箇所に必ず目を通しておいてください。 2. 前回講義に関する確認を行います。前回講義の復習をしっかりと行ってください。 3. 日頃から日本経済新聞やその他の経済誌に目を通すようにしてください。
履修条件	経済学の科目を履修している方が望ましいです。少なくとも経済について学ぼうという意識を持ってください。
テキスト	なし
参考文献・資料	坂元浩一『教養系の国際経済論—総合的理解から次の一歩まで—』大学教育出版（2012） 坂元浩一『世界金融危機』大学教育出版（2010）
成績評価の方法	【小テスト(15%)、講義内発表(35%)、レポート(50%)】 ※出席回数が規定に満たない場合は試験をうけることができません。
オフィスアワー	毎週月曜日・火曜日 14:40～16:40
学生へのメッセージ	<p>この4月に新任教員として就任しました。ゼミは、学生である皆さんと教員の相互作用で作っていくものです。新しいゼミの歴史を作るといふつもりで参加しませんか。第一期生としてフレッシュにスタートしませんか。</p> <p>ゼミは大学生活においてもっとも重要な活動のひとつであると考えます。一人で学ぶのではなく、教員の指導に基づいて所属学生の皆と一緒に貴重な体験をする場です。皆で頑張った、楽しかった、という思い出をたくさん作りましょう。皆さんの人生にとってかけがえのない友人をたくさん作ってください。</p> <p>授業時間は当然しっかりとやりますが、時間外のインフォーマルな活動も重要です。たとえば、コンパ、合宿です。廉価にすることを基本として、頻度や内容などは皆さんに相談します。</p> <p>私は、これまで東京や静岡の大学で長く教鞭をとってきました。また、多くの海外の国を訪問したことがあります。発展途上国が中心であり、アフリカからアジアまでカバーしています。援助調査でフランスなど欧州にも行きます。また、日本や欧米の経済も扱います。私が訪問した国や町の様子を話しながら、これまでの長い経験を授業に生かします。</p>

授業計画（下記の前半の講義と後半のグループワークは交叉して進むことがあります）			
第1回	イントロダクション、全体の説明	第17回	グループワークの立案（役割分担）
第2回	マクロ経済学（理論）	第18回	基礎データ解析（マクロ・金融）
第3回	マクロ経済学（政策）	第19回	基礎データ解析（事例経済）
第4回	国際収支の構成	第20回	経済分析（マクロ・金融）
第5回	国際収支の主要項目	第21回	経済分析（事例経済）
第6回	為替レート of 歴史	第22回	中間発表（前半グループ）
第7回	為替レートの理論	第23回	中間発表（後半グループ）
第8回	金融取引の基本	第24回	データ再解析（マクロ・金融）
第9回	国際金融の理論と政策	第25回	データ解析（事例経済）
第10回	外国貿易Ⅰ（理論）	第26回	経済再分析（マクロ・金融）
第11回	外国貿易Ⅱ（政策）	第27回	経済再分析（事例経済）
第12回	直接投資Ⅰ（理論）	第28回	最終発表（前半グループ）
第13回	直接投資Ⅱ（政策）	第29回	最終発表（後半グループ）
第14回	金融投資Ⅰ（理論）	第30回	追加のエクササイズ（株ダービー）
第15回	金融投資Ⅱ（政策）	第31回	追加のエクササイズ（ディベート）
第16回	グループワークの立案（全体構成）	第32回	総括、必要に応じて小テスト

	ゼミナール名	ゼミナールⅢ（国際協力論ゼミナール）		
	ゼミ担当者名	高千穂安長（Yasunaga TAKACHIHO）		
	科目分類	専門科目群（第1グループ）		
	開講年次	4年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日3限	単位数	2単位

ゼミのテーマ	内なる国際化への貢献Ⅲ
ゼミの概要	<p>日本は加工貿易立国です。国としては、原材料を輸入し、加工・製品化し、輸出し、その代金で国民を幸せにすると同時に、原材料の輸入代金を確保するという方式は変わっていません。</p> <p>そのためには、原材料を供給してくれる国々との良好な関係は不可欠です。このため、これらの国々が困っていることを助けてあげる、日本の良さを分かってもらえるなどの活動は不可欠です。</p> <p>このような活動をどのように行うか、どんな行動が求められるか、その効果はどうかなどを明らかにし、その基本姿勢である「オーナーシップ」、「パートナーシップ」や行動に伴う副作用などを身につけ、地域活動、企業活動などで効果的な活動が行えるようにします。</p> <p>国際協力に関する知識の拡大とともに、具体的な事例として、地域開発（例えば少子高齢化、人口減少などで困っている秋田県）を考察する、現地調査を行うなど体験的な活動を行います。</p>
ゼミの到達目標	国際協力について、客観的な視点から自分の意見を説得的に言えるようになります。
授業時間外の学習	秋田県パワーアップ事業などの課題に取り組む。メディアによりもたらされる国際的な情報について批判的に考える習慣をつけてください。
履修条件	なし
テキスト	なし
参考文献・資料	外務省、JICAなどのホームページ（ゼミⅠと同様） トダロ他 2004 『開発経済学』国際協力出版会 新聞、TV
成績評価の方法	平常点（50%）、討議参加度（20%）、作業参加度（30%）
オフィスアワー	火曜1限 ただし、在室時は原則対応します。
学生へのメッセージ	<p>卒業して社会に入ると、自分自身で思い切り自分の思いを遂げる場が広がります。</p> <p>しかし、そのためには、先ず「活躍の場」を決める必要があります。このために就活があります。先ず、悔いの無い就活を行ってください。自分の活躍の場を確保しましょう。</p> <p>社会に入ってストレスを感じないように、社会人の意識を持ってゼミ活動を行いましょう。</p>

授業計画			
第1回	イントロダクション ゼミ活動の方向性、学生の課業、成績評価など	第17回	企業人としての国際協力 1 本社国際部
第2回	自治体職員としての国際協力1 製造業振興	第18回	企業人としての国際協力 2 各種現場組織
第3回	自治体職員としての国際協力2 観光振興	第19回	企業人としての国際協力 3 会計
第4回	自治体職員としての国際協力3 教育交流	第20回	企業人としての国際協力 4 製造
第5回	自治体職員としての国際協力4 文化交流	第21回	企業人としての国際協力 5 販売
第6回	自治体職員としての国際協力5 芸術交流	第22回	企業人としての国際協力 6 地方支店・工場などの責任者
第7回	自治体職員としての国際協力6 医療交流	第23回	企業人としての国際協力 7 地方支店・工場などの担当者
第8回	自治体職員としての国際協力7 農業交流	第24回	企業人としての国際協力 8 広報、企画
第9回	自治体職員としての国際協力8 水産業交流	第25回	企業人としての国際協力 9 NPO、NGO
第10回	国家職員としての国際協力1 防衛交流	第26回	住民としての国際協力 1 内なる国際化
第11回	国家職員としての国際協力2 貧困解消	第27回	住民としての国際協力 2 持続的な活動
第12回	国家職員としての国際協力3 国際協約作り	第28回	住民としての国際協力 3 ホームステイホストファミリー
第13回	国家職員としての国際協力4 砂漠化防止	第29回	住民としての国際協力 4 直面する課題 言語、風習
第14回	国家職員としての国際協力5 大気・土壌汚染防止、解消	第30回	住民としての国際協力 5 直面する課題 食文化
第15回	国家職員としての国際協力6 地球温暖化防止	第31回	国際協力推進・成果達成のために
第16回	いままでの復習	第32回	総復習

	ゼミナール名	ゼミナールⅢ（地域政策論ゼミナール）		
	ゼミ担当者名	野口 秀行		
	科目分類	専門科目群（第1グループ）		
	開講年次	4年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日3限	単位数	2単位

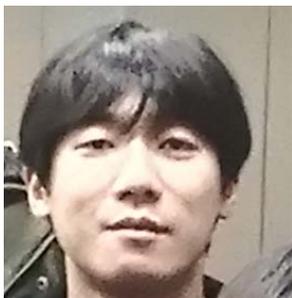
ゼミのテーマ	多様なアプローチによる地域経済の活性化
ゼミの概要	<p>ゼミ生が中心となり研究テーマを絞り、自主的に運営して行くことにしています。ゼミナールⅢでは卒業論文の提出を求めます。大学4年間の集大成としての卒業論文であるため、事前に個別面談を行い、卒業論文のテーマや参考資料収集方法等の指導を行って行きます。</p> <p>卒業論文のテーマは、基本的に自由ですが、資料の取り扱い方、読み込みかた、論文作成の技法など丁寧に指導するので、心配する必要はありません。</p> <p>加えて、ゼミ生相互のディスカッションにより研究の深化とともに、実社会で必要とされるコミュニケーション能力の強化とディベートの実践により社会人を滋養することを心掛けて行きます。</p> <p>また今期は、ここ数年で経済環境は大きく変化しており、これまでに習得してきた知識がもはや時代遅れになってしまっていることについてフォローアップするとともに、今後も変化し続けるであろう経済環境の変化に実社会で柔軟に対応できるよう補足の講義を行います。</p>
ゼミの到達目標	地域活性化のための政策と地域づくりの手法の習得
授業時間外の学習	秋田駅周辺の市街地再開発業・田沢湖のわらび座・小坂町の康楽館などを視察
履修条件	特になし
テキスト	プリントおよび指定する課題図書
参考文献・資料	落合陽三「日本再興」、野口秀行「地方創生」
成績評価の方法	卒論(50%)及び報告の対応(50%)
オフィスアワー	火曜日及び水曜日
学生へのメッセージ	<p>少子高齢化が進み地方経済は疲弊しています。しかし、そうした中で、いま地方は座して死を待つのか、果敢に挑戦して新たに活路を見出すのかが問われているのだとも言えます。アベノミクスの総仕上げとしても、地方創生に向けた地方自治体の意識改革や地方の中小企業の生産性向上が、最大の課題となっています。安倍政権は、そのための制度改革を着実に推し進めていると言えるでしょうが、社会がそれに追いついていないのが実情です。</p> <p>加えて世界で進行しつつある第4次産業革命（IoT（もののインターネット）、BD（ビッグデータ）、AI（人工知能））の覇権をどの国が掴むのかも注目されます。その中で、地方の行政や企業の第4次産業革命への対処と進展著しいICTの活用による地域活性化策を考察して行きたいと思っています。</p> <p>近年注目されている心理学と経済学が融合した行動経済学を基底にした新たな地域経済論による地域経済活性化手法の確立も今年度のゼミの目標にしたいと思っています。これは、今後の日本を考えて行く上で、とても重要だと考えていますし、実践的な経済学とも考えています。」</p>

授業計画			
第1回	前期研究テーマの決定、課題図書を選定に関する議論を中心に	第17回	後期研究テーマの決定、課題図書を選定に関する議論を中心に
第2回	前期課題図書を選定に関するディスカッション	第18回	前期課題図書を選定に関するディスカッション
第3回	課題図書・資料の解説	第19回	課題図書・資料の解説
第4回	AIに関する講義①	第20回	経営戦略論講義
第5回	AIに関する講義②	第21回	地域金融論総括講義
第6回	仮想通貨とブロックチェーンに関する講義	第22回	経営組織論講義
第7回	行動経済学の講義①	第23回	卒論の中間報告①
第8回	行動経済学の講義②	第24回	卒論の中間報告②
第9回	行動経済学の講義③	第25回	卒論の中間報告③
第10回	レポート作成と、そのレポートに関するフリーディスカッション①	第26回	後期テーマのレポート作成と、そのレポートに関するフリーディスカッション①
第11回	レポート作成と、そのレポートに関するフリーディスカッション②	第27回	後期テーマのレポート作成と、そのレポートに関するフリーディスカッション②
第12回	レポート作成と、そのレポートに関するフリーディスカッション③	第28回	後期テーマのレポート作成と、そのレポートに関するフリーディスカッション③
第13回	卒論作成の事前準備としての個別相談および指導	第29回	卒論の最終評価①
第14回	卒論作成の事前準備としての個別相談および指導	第30回	卒論の最終評価②
第15回	総括レポート作成	第31回	卒論の最終評価③
第16回	総括レポートの評価と夏季休暇の課題図書を選定	第32回	総括

	ゼミナール名	ゼミナールⅢ (環境学ゼミナール)		
	ゼミ担当者名	村中 孝司 (むらなか たかし)		
	科目分類	専門科目群 (第1グループ)		
	開講年次	4年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日3限	単位数	2単位

ゼミのテーマ	<p>1. 環境と人間社会の持続可能性を考える。</p> <p>2. 環境、農林漁業、食料・食品に関する卒業論文を作成する。</p>
ゼミの概要	<p>環境学ゼミナールでは、地球環境の保全を、自然環境と人間社会の双方の立場から考え、持続可能な社会の構築を科学的に考えることを目標にしています。さまざまな情報を収集、分析し、自然や社会における問題を発見し、解決に導く勉強を行います。また、フィールドワークを重視しています。座学の勉強だけでは、本質的な問題を発見することは難しいからです。フィールドワークによって自然界や社会における観察眼が向上し、問題を見つけ出す力を養成します。</p> <p>ゼミの内容は、①専門書輪読、②研究活動(卒業論文)の2点となっています。①輪読では、環境学、農業、自然風景などの基本的知識と考え方を身につける勉強を行います。4年生のゼミでは、柴山盛生・遠山紘司・東千秋『問題発見と解決の技法』を輪読します。この教科書では、卒業論文の執筆の方法だけでなく、社会に出たときに役立つものの見方、考え方を学ぶことができます。また、②研究活動では、各人の興味関心に応じた卒業論文を執筆し、年度末までに完成させます。卒業論文は、教員が何度も添削し、質の高い卒業論文を仕上げます。卒業論文は、大学4年間の学修の集大成です。皆さん自身が大学時代に何を学び、どのような成長を遂げたか、卒業論文を執筆することで表現されるでしょう。</p>
ゼミの到達目標	<p>食に関する問題、エネルギー問題、生物多様性に関する問題など、多様な視点から環境や農業・林業に関するテーマを調査・議論し、環境に対する理解を深めます。</p> <p>ゼミは学生の皆さんが作りあげることが基本と考えていますので、教員が教壇に立って講義を行うことはあまりありません。他のメンバーの発表をよく聴き、学び、質問や意見を述べる力を養ってください。また、メンバー相互の議論によって知恵と理解力を高め、教員に立ち向かってほしいと思っています。</p>
授業時間外の学習	<p>図書館や自宅では本や論文を読み、知識や知恵、論文の書き方、発表の方法を学んでください。ただ漠然と日常を過ごすのではなく、どこかに興味深い問題が転がっていないか、探索する眼を養ってください。あらゆる場所に、興味深いテーマは落ちています。</p>
履修条件	特になし。本年度から新たに環境学ゼミナールを選択する場合は、事前に相談ください。
テキスト	柴山盛生・遠山紘司・東千秋『問題発見と解決の技法』放送大学教材 (入手不可能の場合は、第1回のゼミで相談します)
参考文献・資料	ゼミナール中に紹介します。
成績評価の方法	<p>輪読(20%)、卒業論文(70%)、定期試験(10%)</p> <p>優(100～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)</p> <p>卒業論文の執筆が本ゼミナール修了の必須条件です。卒業論文の完成は1月下旬とします。それまでに、教員の添削指導を受け、教員による「これで完成」という宣言を1月中旬までに取得してください。したがって、卒業論文の初稿を遅くとも10月上旬に提出する必要があります。</p>
オフィスアワー	火曜日 14:40～17:10、水曜日 16:20～17:10 ほか随時。
学生へのメッセージ	<p>大学は学問に取り組むところです。学問に対して真剣に取り組むのならば、どのようなテーマでもよいと思います。自信を持って他者に自慢できる研究を行ってほしいと願っています。</p> <p>ゼミナール研修会(夏期)は皆さんと相談して行き先を決定します。</p> <p>環境学ゼミナールの卒業生は、食品、教育、農業、人材派遣、郵便事業、販売(小売)、運輸等、さまざまな業種へ就職していますので、多様な職種・業種への支援を行います。</p>

授業計画			
第1回	ガイダンス ゼミナールでの取組概要、教科書紹介 1年間の目標設定	第17回	卒業論文⑤ 論文紹介（グループA） 卒業論文の進捗状況確認
第2回	フィールドワーク① 自然・社会現象を観察・記録する 自然・社会現象から問題を見出す	第18回	卒業論文⑥ 論文紹介（グループB） 卒業論文の進捗状況確認
第3回	フィールドワーク② 資料や文献に学ぶ 文献の中から問題を発見する	第19回	輪読⑧ 「第8章 発想の手法Ⅱ：収束的な手法」
第4回	卒業論文① 第1次 卒業論文のテーマ予告 進捗状況の報告	第20回	輪読⑨ 「第9章 グラフによる表現」
第5回	輪読① 「第1章 問題とは何か」	第21回	輪読⑩ 「第10章 図解による表現」
第6回	輪読② 「第2章 問題の発見」	第22回	輪読⑪ 「第11章 コミュニケーション」
第7回	フィールドワーク③ 問題の本質を見極める 問題解決に向けて必要な観察とは何か	第23回	卒業論文⑦ 中間報告
第8回	輪読③ 「第3章 目標の設定」	第24回	卒業論文⑧ 卒業論文指導、表現技術
第9回	輪読④ 「第4章 問題解決の手順」	第25回	卒業論文⑨ 卒業論文指導、専門用語、自然言語
第10回	卒業論文② 第2次 卒業論文のテーマ予告 進捗状況の報告	第26回	卒業論文⑩ 研究倫理
第11回	輪読⑤ 「第5章 情報の収集と整理」	第27回	卒業論文⑪ 討論
第12回	卒業論文③ 専門書紹介（グループA）	第28回	卒業論文⑫ 論文の体裁、引用文献と参考文献
第13回	卒業論文④ 専門書紹介（グループB）	第29回	卒業論文⑬ 研究発表（グループA）
第14回	輪読⑥ 「第6章 情報の分析」	第30回	卒業論文⑭ 研究発表（グループB）
第15回	輪読⑦ 「第7章 発想の手法Ⅰ：発散的な手法」	第31回	卒業論文⑮ 研究発表（グループC）
第16回	前期定期試験	第32回	後期定期試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅢ（金融論ゼミナールⅢ）		
	ゼミ担当者名	山本 俊		
	科目分類	専門科目群（第1グループ）		
	開講年次	4年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日3限	単位数	2単位

ゼミのテーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・経済分野、特に、金融や地域経済を中心とした課題研究学習の成果を卒業論文にまとめます。 ・自分が直面する問題に対し、経済学を使い、答えを導き出す訓練をします。
ゼミの概要	<p>みなさんは、どんなことなら頑張ることが出来ますか。それは好きなこと、関心のあることだと思います。だからこそ、金融論ゼミナールでは、あなたの将来の希望進路や、あなたの関心のあるテーマをとことん大切にします。そして「これだ！！」と思えるテーマを見つけたら、大きく3つの研究学習を通じて、「考える力」を身に付け、「頼れる自分」になって欲しいと思います。</p> <p>第1は、2年次で中心となる学習であり、「これだ！！」と思うテーマに関する教科書や論文の中で、最も代表的なもの、あるいは「これが自分のテーマだ」、「勉強したいことに一番近い」と思うものを見つけ、熟読し、分からないことを一つひとつ調べ、理解していくことです。そうすれば、そのテーマの中に、より興味深い部分を見つけることができます。それが「あなたを頼りがいのある自分」にしてくれる成長の種、すなわち研究課題となるのです。</p> <p>第2は、3年次で中心となる学習であり、研究課題に対する自分なりの答えを見つけ出すことです。ここでは、授業で学習した広範な知識や見方があなたをサポートしてくれます。さらに、全体像を見渡す指導教員と探究のキャッチボールを繰り返すことで、自ずと成果はまとまり、それはあなたの自己評価を高めてくれるはずです。ここでは仲間との協働や勉強会の楽しみにも気付いて欲しい。</p> <p>第3は、3年次または4年次で中心となる学習であり、課題研究の成果をまとめ、学内外のゼミナール大会等に挑戦することです。こうした大会に申込み、期限を設けることが、成果を挙げるための良い仕組みとなります。その期限は指導教員をも拘束し、学生と教員を目標に向けて努力させます。また大会で、好成績を挙げるには、工夫が必要です。そこで、あなたらしさを存分に発揮して下さい。こうした研究学習で培われた「考える力」や「大会への出場経験」は就職活動でも、社会人になってからもあなたを力強く助けてくれるはずです。</p>
ゼミの到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業論文を提出し、その検討会での質疑に対し、明確に応答できるようになること。
授業時間外の学習	<ul style="list-style-type: none"> ・各回のゼミナールは報告の場であり、課外学習が基本となります。
履修条件	<ul style="list-style-type: none"> ・ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ、マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ、現代ファイナンス論Ⅰ・Ⅱ、経済データ解析論、金融機関論を履修済みであることが望ましい。望ましいのであって、厳守ではありません。
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・報告者のレジメを事前配布するので、必ず熟読し、質問できるようにしておいて下さい。
参考文献・資料	<ul style="list-style-type: none"> ・オリジナルの動画教材やプリントを必要に応じて提供します。
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験：20%、ゼミ内または学内外の報告会への参加状況：80%
オフィスアワー	<ul style="list-style-type: none"> ・毎週水曜日、木曜日の4限、5限（研究室在室時は基本的に対応します）
学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・もう直ぐ就職ですね。職場には親も、友人も、私達教員もいません。いるのは、上司とライバルです。上司を好きになり、ライバルと助け合い、職場に自分の居場所を見つけられるかどうかは全て自分次第です。ゼミ活動を通じて、頼れる自分になってください。最後に頼れるのは自分です。 ・例年、金融機関等への就職を希望する学生が多く選択してくれます。そうした先輩は秋田県の地方銀行や協同組織金融機関、信用保証協会、日本銀行などで活躍しています。同じ志を持った者同士で切磋琢磨できるのも金融論ゼミナールの魅力の一つです。また、そうした職場で、実際に活躍している先輩とのネットワーク創りも応援して行きます。

授業計画			
第1回	テーマ設定の再検討	第17回	実践報告4回目 グループ1
第2回	分析方法の妥当性	第18回	実践報告4回目 グループ2
第3回	データ入手可能性	第19回	実践報告4回目 グループ3
第4回	実践報告1回目 グループ1	第20回	実践報告4回目 グループ4
第5回	実践報告1回目 グループ2	第21回	実践報告5回目 グループ1
第6回	実践報告1回目 グループ3	第22回	実践報告5回目 グループ2
第7回	実践報告1回目 グループ4	第23回	実践報告5回目 グループ3
第8回	実践報告2回目 グループ1	第24回	実践報告5回目 グループ4
第9回	実践報告2回目 グループ2	第25回	実践報告6回目 グループ1
第10回	実践報告2回目 グループ3	第26回	実践報告6回目 グループ2
第11回	実践報告2回目 グループ4	第27回	実践報告6回目 グループ3
第12回	実践報告3回目 グループ1	第28回	実践報告6回目 グループ4
第13回	実践報告3回目 グループ2	第29回	口頭試問に向けた最終調整① 中身の確認
第14回	実践報告3回目 グループ3	第30回	口頭試問に向けた最終調整② 体裁の確認
第15回	実践報告3回目 グループ4	第31回	口頭試問 (定期試験) ※卒業論文検討会も実施します。
第16回	夏休みの学習について		

	ゼミナール名	ゼミナールⅢ (刑法学ゼミナール)		
	ゼミ担当者名	秋山 栄一		
	科目分類	専門科目群 (第1グループ)		
	開講年次	4年次	開講期間	通年
	開講時限	金曜日2限	単位数	2単位

ゼミのテーマ	刑法理論の探求
ゼミの概要	本ゼミナールは、ゼミナールⅡの延長線上として、学生主体の研究活動を主とする。ゼミナールⅡでは、判例・裁判例を中心とした報告・検討であったが、ここでは、主要な学説にも言及し、総合的な報告・検討を行う。最終的にはゼミ論文の完成を目指す。ただし、後述の授業計画は、学生の理解度、履修状況により変更されることがある。
ゼミの到達目標	学生各々が興味と関心をもった刑法学上の論点・テーマについて検討し、ゼミナール論文としてまとめることができる。 刑法学を手段として、他者の存在を自覚し、物事に対する深い洞察力とそれに対する的確な判断力を養う素地をつくる。
授業時間外の学習	日頃、マスコミなどを通じて報道される社会の現象（特に、法律問題・犯罪現象）に関心をもつこと。 各々設定したテーマに関する判例・学説を、適宜図書館等を活用し、調べ、まとめるために、ゼミナール以外の時間の準備を怠らないこと。
履修条件	刑事法に興味と関心をもっていると同時に、ゼミナールのルールを遵守できること。 刑事法関連科目が履修済みであること。
テキスト	学生のテーマに従って、適宜指示する。
参考文献・資料	例えば、大塚仁・河上和雄他編 大コンメンタール刑法〔第3版〕1巻～ 青林書院、西田典之、山口厚他編 注釈刑法〔第2版〕1巻～ 有斐閣、前田雅英他編 条解刑法〔第3版〕 弘文堂、その他学生のテーマに従って、適宜指示する。
成績評価の方法	定期試験 50%、報告・姿勢 50%の割合で厳正に評価する。
オフィスアワー	原則として、火曜1限 (9:00～10:30)・火曜4限 (14:40～16:10) ※ 事前に連絡をもらえるとありがたい
学生へのメッセージ	ゼミ論文の執筆は、学生の生活の集大成といっても過言ではありません。これを完遂するよう集中して取り組んでいきましょう。また、継続的にゼミでの交流を大切にしていきたいと思えます。

授業計画			
第1回	ガイダンス、学生のテーマの設定の確認	第17回	各々のテーマについて学生個別報告・検討③-1
第2回	各々のテーマについて学生個別報告・検討①-1	第18回	〃 ③-2
第3回	〃 ①-2	第19回	〃 ③-3
第4回	〃 ①-3	第20回	〃 ③-4
第5回	〃 ①-4	第21回	〃 ③-5
第6回	〃 ①-5	第22回	〃 ③-6
第7回	〃 ①-6	第23回	フィードバック③
第8回	フィードバック①	第24回	各々のテーマについて学生個別報告・検討④-1
第9回	各々のテーマについて学生個別報告・検討②-1	第25回	〃 ④-2
第10回	〃 ②-2	第26回	〃 ④-3
第11回	〃 ②-3	第27回	〃 ④-4
第12回	〃 ②-4	第28回	〃 ④-5
第13回	〃 ②-5	第29回	〃 ④-6
第14回	〃 ②-6	第30回	ゼミ論文の提出と補正作業
第15回	〃 ②-7	第31回	論文の補正作業の確認とフィードバック④ 最終提出
第16回	フィードバック②	第32回	試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅢ (刑事法ゼミナール)		
	ゼミ担当者名	岡崎 頌平		
	科目分類	専門科目群 (第1グループ)		
	開講年次	4年次	開講期間	通年
	開講時限	金曜日 2限	単位数	2単位

ゼミのテーマ	刑事法の重要問題を研究する
ゼミの概要	本ゼミナールでは、ゼミナールⅡで完成させたゼミレポートを発展させて、ゼミ論文としてまとめあげてもらいます(成績評価の方法を確認すること)。ただ、3年後期に開講される刑事政策を履修して、刑事政策や少年司法に関心をもった学生が出てくることは十分に想定されますので、必ずしもゼミレポートで選択したテーマでのゼミ論文完成に拘束されることはないと思います。しかしながら、その場合には、これまで学んできたことをしっかりと活かして、完成までのロードマップを早めに作りあげることが重要になります。
ゼミの到達目標	他者の批判に耐えうる質・量を備えたゼミ論文の完成
授業時間外の学習	<ul style="list-style-type: none"> ・ゼミ論文完成に向けた準備をすること。 ・計画的に執筆を進めること。
履修条件	刑法入門・刑法総論・刑法各論・刑事訴訟法・刑事政策の単位を修得済みであること。
テキスト	受講者が使用している基本書など
参考文献・資料	中山研一ほか『レヴィジオン刑法1・2・3』成文堂(1997・2002・2009)；山口厚『問題探究 刑法総論・刑法各論』有斐閣(1998・1999)；山口厚ほか『理論刑法学の最前線Ⅰ・Ⅱ』岩波書店(2001・2006)；西田典之ほか『注釈刑法 第1・2巻』有斐閣(2010・2016)；井田良ほか『山中敬一先生古稀祝賀論文集 上巻・下巻』成文堂(いずれも2017)；井田良ほか『浅田和茂先生古稀祝賀論文集 上巻・下巻』成文堂(いずれも2016)；高橋則夫ほか『曾根威彦先生・田口守一先生古稀祝賀論文集 上巻・下巻』成文堂(いずれも2014)；井上正仁ほか『三井誠先生古稀祝賀論文集』有斐閣(2012)；伊東研祐ほか『リーディングス刑法』法律文化社(2015)；川崎英明ほか『リーディングス刑事訴訟法』法律文化社(2016)；朴元奎ほか『リーディングス刑事政策』法律文化社(2016)
成績評価の方法	ゼミ論文50%、授業への参加状況(報告・質疑応答など)30%、定期試験20% ※ゼミ論文については、1枚あたり40字×30行の用紙設定(A4サイズ)で最低10枚以上のものの提出を求める予定です。
オフィスアワー	火曜日14:40~16:10；金曜日9:30~10:30
学生へのメッセージ	<p>法学を学ぶ際に、出発点となるのは条文です。したがって、あまりにも当然のことを述べることとなりますが、法律学科の法律系の専門科目と同様に六法を必ず持参してください。その際に、重要なことは、コンパクトなものでも構わないので、最新のものであるかどうかです。周知のように、昨年(2017年)、刑法の性犯罪処罰規定が大きく改正されました。まず、この改正に対応した六法を持っていることを確認してください。</p> <p>次に、この授業は、単一方向のものではなく、双方向のものになりますので、積極的な発言を期待しています。</p> <p>最後に、これも当然のことを述べることとなりますが、欠席・遅刻をする場合には必ず連絡するようにしてください。無断欠席等は厳禁です(なお、無断欠席等があった場合、その事情によっては、それ以降の履修を認めないこともあり得ると、あらかじめお知らせしておきます)。</p>

授業計画			
第1回	イントロダクション	第17回	第3回報告①
第2回	第1回報告①	第18回	第3回報告②
第3回	第1回報告②	第19回	第3回報告③
第4回	第1回報告③	第20回	第3回報告④
第5回	第1回報告④	第21回	第3回報告⑤
第6回	第1回報告⑤	第22回	第3回報告⑥
第7回	第1回報告⑥	第23回	まとめ③
第8回	まとめ①	第24回	第4回報告①
第9回	第2回報告①	第25回	第4回報告②
第10回	第2回報告②	第26回	第4回報告③
第11回	第2回報告③	第27回	第4回報告④
第12回	第2回報告④	第28回	第4回報告⑤
第13回	第2回報告⑤	第29回	第4回報告⑥
第14回	第2回報告⑥	第30回	まとめ④
第15回	まとめ②	第31回	全体のまとめ
第16回	定期試験	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅢ（民事訴訟法ゼミナール）		
	ゼミ担当者名	川口 誠		
	科目分類	専門科目群（第1グループ）		
	開講年次	4年次	開講期間	通年
	開講時限	金曜日2限	単位数	2単位

ゼミのテーマ	民事訴訟制度に関するさらなる理解、手続法の考え方のさらなる理解
ゼミの概要	民事の紛争解決制度全体の基本的理解、相互の連関の理解を基礎に、民事訴訟制度自体の理解と民事訴訟制度のあるべき姿を考えることが、ゼミの目的です。 「民事訴訟法判例百選」（有斐閣）をテキストに、ゼミ員の当番制でそれぞれの担当の判例を調査し報告してもらいます。それを基に議論し、さらに関連事項を議論して、より深い民事訴訟制度の理解を目指します。
ゼミの到達目標	民事訴訟制度を理解できるようになる。
授業時間外の学習	民事訴訟法の基本書を繰り返し精読しておくこと。
履修条件	民法（特に財産法）、民事訴訟法の単位取得済みであること。
テキスト	『民事訴訟法判例百選』（有斐閣、別冊ジュリスト）。
参考文献・資料	適宜指摘する。
成績評価の方法	報告60%、期末試験30%に、授業参加・態度10%で、総合評価。
オフィスアワー	毎週火曜日 10:40-12:10、木曜 9:00-10:30
学生へのメッセージ	<p>自分の担当テーマの調査、勉強を責任感をもってすること。報告が誤っていると、他のゼミ員に誤った情報を提供することになります。また、自分の担当テーマだけではなく、他のゼミ員の報告に、積極的に議論参加できるように、毎回のテーマについてしっかり予習してください。</p> <p>勉強以外のゼミのイベント（大学祭、懇親会など）に積極的に関わってください。アクティブな人がたくさんいるほどゼミは活発に、また楽しくなります。勉強と勉強以外のこととを一緒に協力してすることの中から、お互いに信頼できる友人が見つかると思います。</p> <p>ゼミが勉学の切磋琢磨の場となるだけでなく、ゼミを通じてゼミ員相互の信頼を深め、卒業後も連絡を取り合う仲間を見つける場、機会となることができればと思います。</p> <p>最後に、このゼミに限らず、ゼミは欠席しないこと。必ず電話、メールが届く、つまり連絡がとれるようにすること。携帯の変更の際は、番号、メルアドを必ず連絡すること。</p>

授業計画			
第1回	訴訟と非訟 — 夫婦同居の審判	第17回	当事者からの主張の要否(1)— 所有権喪失事由
第2回	移送 — 裁量移送の要件	第18回	相手方の援用しない自己に不利益な事実の陳述
第3回	忌避事由	第19回	裁判所の釈明義務
第4回	氏名冒用訴訟	第20回	訴訟上の証明 — ルンバール事件
第5回	民法上の組合の当事者能力	第21回	過失の一応の推定
第6回	法定訴訟担当 — 遺言執行者	第22回	証明妨害
第7回	訴訟代理人の代理権の範囲	第23回	証明責任の分配
第8回	将来給付の訴え—大阪国際空港事件	第24回	文書提出命令(1)— 自己専利用文書
第9回	遺言者生存中に提起された遺言無効確認の訴え	第25回	診療録の証拠保全の要件
第10回	債務不存在確認訴訟の訴えの利益	第26回	既判力の時的限界(2)— 建物買取請求権
第11回	訴権の濫用	第27回	一部請求後の残部請求
第12回	訴えの交換的変更	第28回	口頭弁論終結後の承継人
第13回	境界確定の訴え	第29回	訴え取下げの合意の効力
第14回	重複する訴え(1)- 債務不存在確認請求と手形訴訟	第30回	訴訟上の和解と錯誤
第15回	口頭弁論の再開	第31回	試験
第16回	攻撃防御方法の提出と信義則	第32回	

	ゼミナール名	ゼミナールⅢ (安全保障論ゼミナール)		
	ゼミ担当者名	佐藤克枝		
	科目分類	専門科目群 (第1グループ)		
	開講年次	4年次	開講期間	通年
	開講時限	金曜日2限	単位数	2単位

ゼミのテーマ	安全保障の重要問題を研究する。
ゼミの概要	<p>日本の安全保障について 国際環境と国内政治がどのようにかかわってきたのかにも着目しつつ学んでいきます。</p> <p>世界の各国は独自の安全保障政策や、安全保障組織により、自国の主権と独立を確保しています。現在の国際情勢、とりわけ軍事情勢は厳しい状況にあります。そのような中で、各国はそれぞれの防衛努力により、周辺諸国と連携するとともに、国連の集団的安全保障体制の下で平和と安全を維持しているところです。</p> <p>当初は現在の平和安全保障体制の下で日本がどのような安全保障政策をとっているのか、国連の集団安全保障体制、日米及び関係各国との安全保障体制についてまとめを行います。</p> <p>後半は、各自が興味を持ったテーマについてゼミ論文をまとめます。</p>
ゼミの到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 国家の成立要件 (住民・領土・政府・外交能力) を説明できる。 2 領域及び日本の領土問題の概要を説明できる。 3 防衛政策の基本 (専守防衛)、日米安全保障体制が説明できる。 4 国家安全保障戦略、事態対処法制、平和安全法制の概要を説明できる。 5 国連の集団安全保障体制と集団的自衛権の差異を説明できる。 6 武力攻撃事態への対処のための法律の概要を説明できる。 7 国民保護についての国や自治体の取り組みについて説明できる。 8 安全保障政策について自己の意見を述べるができる。
授業時間外の学習	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の安全保障政策に関するニュースに関心を持つこと。 ・国際的な軍事情勢、国際テロ、日本周辺的情勢に関心を持ち、国連や当事国の対処状況に関心を持つこと。
履修条件	<p>憲法入門、統治機構論、世界政治学、法律入門のいずれかを履修済みであること。</p> <p>国際法を履修していることが望ましい。</p>
テキスト	授業中に指示する。
参考文献・資料	防衛白書 (平成29年度版)、外交青書 (平成29年度版)、田村重信等『日本の防衛法制』 (内外出版)、同『日本の防衛政策』 (内外出版)、森本敏『日本の安全保障』 (実務教育出版)、潮匡人『日本人が知らない安全保障学』 (中公新書)、土田愛彦『防衛ってなに』 (鷹書房弓プレス)
成績評価の方法	授業への参加状況 (報告・質疑応答など) 60%、定期試験 40%
オフィスアワー	火曜日 14:40~16:10 水曜日 14:40~16:10
学生へのメッセージ	<p>国際関係や国家としての安全保障のあり方、国民保護等に興味のある学生の積極的な参加を期待しています。</p> <p>ゼミ論文のテーマを定め、研究及び発表に入ることができるようにするため、はじめはこれまで体系的に学んだことがない学生もいることを前提に授業を進めます。</p> <p>後期には、実際に安全保障に携わる防衛省及び国民保護計画策定の中心となる自治体の関係者をゲストスピーカーとして招聘して特別講義をして頂き、安全保障について、さらに理解を深めてもらう予定です。</p>

授業計画			
第1回	ガイダンス 安全保障の意義	第17回	第1回報告③
第2回	面接 国家の成立要件、領域、領土（領土問題含む。）	第18回	第1回報告④
第3回	防衛政策の基本	第19回	第1回報告⑤
第4回	防衛政策の方針、政策決定機関	第20回	トピック・まとめ
第5回	緊急事態対処、武力攻撃対処に関する法体系	第21回	第2回報告①
第6回	国民保護法	第22回	第2回報告②
第7回	国際連合の主要機関及び役割	第23回	第2回報告③
第8回	紛争の平和的解決手段	第24回	トピック①
第9回	地域的安全保障体制	第25回	第2回報告④
第10回	国際平和協力活動	第26回	第2回報告⑤
第11回	まとめ①	第27回	まとめ③
第12回	課題研究テーマの発表	第28回	トピック②
第13回	第1回報告①	第29回	講評
第14回	第1回報告②	第30回	講評
第15回	まとめ②	第31回	全体のまとめ
第16回	定期試験	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅢ（公法（憲法・行政法））		
	ゼミ担当者名	佐藤 寛稔		
	科目分類	専門科目群（第1グループ）		
	開講年次	4年次	開講期間	通年
	開講時限	金曜日2限	単位数	2単位

ゼミのテーマ	公法（憲法・行政法）のテーマ研究
ゼミの概要	<p>履修者が選んだ憲法・行政法に関するテーマを各自で設定し、中間発表を経て、最終的に卒業研究（ゼミ論文）を完成させます。</p> <p>毎回のゼミは以下のように進めます。①テーマに関する発表②発表に対する討論、③理解度を試す問題演習（成績には反映しません）を行います。判例の選定に当たっては、各人に任せますが、多くの教科書や教材で扱われているような重要判例の中から選ぶことを原則とします。</p> <p>発表を担当する人は発表用資料（パワーポイント）を作ってもらい、それを使って、20分から30分程度の発表をしてもらいます。他の履修学生には毎回のテーマに関連する判例や資料を事前に読んだ上で、発表者の発表内容について討論してもらいます。法律学には、数学や物理のような「正解」はありません。討論では、まずは、思い切って自分の考えを話してください。</p> <p>また最終的に提出する卒業研究は、5000字程度のものとします。</p>
ゼミの到達目標	憲法・行政法の中から研究テーマを選び、卒業研究（ゼミ論文）を執筆することができる。
授業時間外の学習	発表者が事前に提示する参考文献は必ず読むこと。
履修条件	過去の成績、所属学部・学科は一切問いません。但し、私から連絡があったときに必ず応答すること、学校行事、ゼミ行事への積極的な参加が求められます。また、ゼミは「学ぶ場」ですので、それにふさわしい整容を心がけられる人のみ履修を認めます。
テキスト	芦部信喜著・高橋和之補訂『憲法（第6版）』（岩波書店） 藤田宙靖『行政法入門（第7版）』（有斐閣）
参考文献・資料	憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ（第6版）、行政判例百選Ⅰ・Ⅱ（第7版）その他、必要な文献を適宜指示します。
成績評価の方法	発表30%、討論の参加への積極性20%、提出された卒業研究についての最終試験50% *発表をしなかった場合にはそのことのみによって不可とします。欠席回数が10回以上の者は試験を受けることができません。
オフィスアワー	火曜日9:00～10:30 水曜日9:00～10:30
学生へのメッセージ	<p>憲法・行政法は本来同根の学問であり、どちらかを学ぼうとする者にとっては他方の勉強も不可欠です。この演習を通じて、様々なテーマ研究に接することによって、憲法・行政法学のそれぞれの思考様式を身につけて欲しいと思います。</p> <p>また、卒業研究を通じて、口頭発表の作法や論文の執筆方法、他者と議論してお互いに高めあっていく術を身につけていくことは、憲法・行政法の修得以上に皆さんの将来に役に立つことですので、前向きに捉えて頑張りましょう。</p> <p>今年から始まるゼミですので、憲法や行政法の知識が全くない人でもついていけるよう基本知識の確認にも時間を取りますので、どの学科に所属している人でもやる気さえあれば、歓迎します。</p>

授業計画			
第1回	ガイダンス	第17回	中間レポートの提出/後期ガイダンス
第2回	教員による発表デモ/テーマ設定に関する説明	第18回	中間レポートに対する講評
第3回	テーマの設定	第19回	第3回 中間報告会
第4回	第1回 中間報告会	第20回	第3回 中間報告会
第5回	第1回 中間報告会	第21回	第3回 中間報告会
第6回	第1回 中間報告会	第22回	第3回 中間報告
第7回	第1回 中間報告	第23回	第3回 中間報告
第8回	第1回 中間報告	第24回	第3回 中間報告
第9回	第1回 中間報告	第25回	第4回 中間報告
第10回	第2回 中間報告	第26回	第4回 中間報告
第11回	第2回 中間報告	第27回	第4回 中間報告
第12回	第2回 中間報告	第28回	第4回 中間報告
第13回	第2回 中間報告	第29回	第4回 中間報告
第14回	第2回 中間報告	第30回	第4回 中間報告
第15回	第2回 中間報告	第31回	卒業研究の提出/ゼミ面談
第16回	ゼミ面談	第32回	卒業研究に対する最終試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅢ（民法ゼミナール）		
	ゼミ担当者名	高橋佑輔		
	科目分類	専門科目群（第1グループ）		
	開講年次	4年次	開講期間	通年
	開講時限	金曜日2限	単位数	2単位

ゼミのテーマ	民法の知識を修得するとともに、具体的な問題の解決策を考える能力を育む。
ゼミの概要	<p>判例等の事例を題材として、報告担当者の発表をベースに事例研究を行い、また、関連する法分野の知識の確認を行う。報告担当者以外の参加者にも発言を求め（指名する）、担当教員との対話方式でゼミナールを進行する。</p> <p>ゼミナールⅢ（4年次）は、3年次までに修得した民法知識を確認しつつ、民法知識を前提とした問題解決策等を各履修者が自ら考える力を養うことを目標とする。</p> <p>本ゼミナールでは、民法知識の確認のため月1回程度知識確認テストを実施します。</p> <p>履修人数により異なりますが、履修者全員が少なくとも年2回以上（通常4回程度）ゼミナール内で発表を担当することになります。また、原則として発表準備はゼミナール時間外に行ってもらいます（発表内容等に関する教員への相談は歓迎します）。</p>
ゼミの到達目標	民法の知識を修得するとともに、具体的な問題の解決策を考える能力を育む。公務員試験等で問われる民法の知識を確実に身に付ける。
授業時間外の学習	ゼミナールで扱った範囲について、問題演習等を通じて復習すること。報告担当者は、報告において引用する資料等も確認して報告準備を行うこと。
履修条件	民法入門、民法総則、物権法履修程度の民法知識があること（実際に履修しているかは問わない）。債権総論、債権各論、親族・相続の各科目を卒業までに履修すること。
テキスト	履修者と相談して指定する。
参考文献・資料	適宜指示する。
成績評価の方法	ゼミナール内での報告（75%）と試験結果（25%）に学習到達度確認テスト結果等を加味して評価する。
オフィスアワー	火曜10:40～12:10 金曜13:00～14:30
学生へのメッセージ	<p>民法を学ぶ意欲のある学生の参加を歓迎します。参加希望者は毎回 必ず 六法、テキストを手元に準備するようにしてください。</p> <p>毎回出席することが当然ですので、理由なく欠席した場合にはレポート等の提出を求めます。</p> <p>原則として就職活動を理由とする欠席は認めません。複数回開催される企業説明会等は本ゼミナールと重複しない開催日に参加してください。個別面接等でやむを得ず欠席する場合には、事前に担当教員に相談してください。</p>

授業計画			
第1回	ガイダンス	第17回	学習状況の確認・事例検討
第2回	事例検討	第18回	事例検討
第3回	事例検討	第19回	事例検討
第4回	発表準備・調査（図書館での判例DB検索など）	第20回	確認テスト⑤ 発表準備・調査・面談
第5回	確認テスト① 発表準備・調査・面談（発表準備状況確認）	第21回	発表準備・調査・面談
第6回	事例検討	第22回	事例検討
第7回	発表・事例検討	第23回	発表・事例検討
第8回	発表・事例検討	第24回	確認テスト⑥ 発表・事例検討
第9回	確認テスト② 発表・事例検討	第25回	発表・事例検討
第10回	発表・事例検討	第26回	発表・事例検討
第11回	発表・事例検討	第27回	発表・事例検討
第12回	発表・事例検討	第28回	確認テスト⑦ 発表・事例検討
第13回	確認テスト③ 発表・事例検討	第29回	発表・事例検討
第14回	事例検討	第30回	事例検討
第15回	前期のまとめ	第31回	後期のまとめ
第16回	確認テスト④	第32回	期末試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅢ (心理学ゼミナール)		
	ゼミ担当者名	瀧澤 純 (たきざわ じゅん)		
	科目分類	専門科目群 (第1グループ)		
	開講年次	4年次	開講期間	通年
	開講時限	金曜日2限	単位数	2単位

ゼミのテーマ	心理学の議論を主体的に行い、世の中にとって新しい知見を探求する。
ゼミの概要	個人で、または6人以内のチームで、テーマ決め、研究計画書の作成、実験や調査を行う。その後は個人で、データ解析と論文の作成(5000文字以上)を行う。
ゼミの到達目標	心についての科学的思考力、社会問題の分析・解決能力、論理的な文章を作成する能力を身につける。社会、人間、動物に関する心理について、今までの世の中になかった知見を生み出せるようになる。
授業時間外の学習	時間外で課題に取り組む時間が多い。自分のテーマについて資料を調べ、資料を読み、研究を実施し、研究結果を文章にするため、多くの時間が必要である。
履修条件	以下の①と②をともに満たすことが必要である。 ①ゼミを履修する時点で「心と行動Ⅰ、心と行動Ⅱ、人間行動学、スポーツ心理学、フレッシュマンゼミナール(1年生ゼミナール)、専門ゼミナールⅠ(心理学)の6科目」から2科目以上の単位を取得していること ②ゼミの初回に出席すること。欠席する場合は、瀧澤まで事前に連絡すること
テキスト	使用しない。学生自身が、取り組むテーマに応じて資料を探さなければならない。
参考文献・資料	松井豊『改訂新版 心理学論文の書き方 卒業論文や修士論文を書くために』(河出書房新社, 2010年)
成績評価の方法	定期試験 40%、提出物の内容評価 40%、取り組み姿勢 20%の割合で総合的に評価する。
オフィスアワー	月曜日の3時限(13:00から14:30)、金曜日の3時限(13:00から14:30)
学生へのメッセージ	このゼミでは、学ぶことに対する意欲と、その意欲を表す積極的な姿勢が必要になります。事前連絡なしでの欠席は認めません。 瀧澤ゼミ2年生から4年生での合同の合宿など、企画の運営を任せる場合があります。 このゼミの履修条件は、来年度以降は変わる可能性があります。

授業計画			
第1回	ガイダンス：ゼミの概要、教員自己紹介、学生自己紹介	第17回	データ入力、平均値と度数の集計
第2回	よい研究とは：独自性、応用性、汎用性	第18回	統計的検定
第3回	テーマ決め	第19回	図表の作成
第4回	研究案の具体化①：課題設定、仮説と結果予想	第20回	研究メモの作成①：構成と見出し
第5回	研究案の具体化②：実験手続きの具体化	第21回	研究メモの作成②：書くべき内容
第6回	研究案の具体化③：質問紙の作成	第22回	研究メモの仮提出と校正
第7回	研究案の改善①：仮説との関連	第23回	研究メモから論文へ①：文章の書き方
第8回	研究案の改善②：測定方法の欠点と工夫	第24回	研究メモから論文へ②：詳細に、簡潔に
第9回	研究案の改善③：リハーサル的重要性	第25回	論文作成①
第10回	研究の実施①：研究のマナー	第26回	論文作成②
第11回	研究の実施②：研究の倫理、同意の方法	第27回	論文作成③
第12回	中間報告会①：前半組	第28回	最終報告会の準備①
第13回	中間報告会②：後半組	第29回	最終報告会の準備②
第14回	研究計画書の作成	第30回	最終提出と最終報告会①：前半組
第15回	研究計画書の提出	第31回	最終提出と最終報告会②：後半組
第16回	前期のまとめ	第32回	後期定期試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅢ（観光学ゼミナール）		
	ゼミ担当者名	井上 寛		
	科目分類	専門科目群（第1グループ）		
	開講年次	4年次	開講期間	通年
	開講時限	金曜日2限	単位数	2単位

ゼミのテーマ	観光学を卒業後の進路に応用する
ゼミの概要	<p>2020年の東京オリンピック・パラリンピックをひかえ、社会全体が「観光」に大きな関心を寄せています。そして、政府は訪日外国人観光客数を4000万人にする目標を立てています。そして、政府は訪日外国人観光客数を4000万人にする目標を立てています。外国人観光客がたくさん日本に来て「お金儲け」ができれば、私たちは本当に幸せになれるのでしょうか？その部分も重要ではありますが、観光学はもっと深く、面白くて役に立つ学問です。</p> <p>これまでに講義やインターンシップなどの実習で学んだ観光学について、さらに実践的かつ深く学ぶのがこの「観光学ゼミナール」のテーマです。ですから、観光学ゼミナールでは、各自の興味・関心をもとに、メンバーで議論したうえで、卒業後の進路に応用するための観光学の研究を1年かけて行います。前にも述べたように、観光学は実践的な学問ですので、自分から「アクション」することを重視したいと思います。ゼミ時間外に活動することもあります。積極的に参加する意欲のある学生の参加を期待します。</p>
ゼミの到達目標	観光学を卒業後に「観光のプロフェッショナル」として応用する方法を理解できる。
授業時間外の学習	ゼミ課題に対し主体的かつ真剣に取り組むこと。
履修条件	これまでに観光論入門Ⅰの単位を履修していること。 観光のプロフェッショナルを目指し、ゼミ行事に積極的に参加する意欲をもっていること。
テキスト	山下晋司編『観光学キーワード』有斐閣、2011年(観光論入門Ⅰで使用したテキスト)
参考文献・資料	ゼミナールの時間に適宜指示します。
成績評価の方法	定期試験(30%)・平常点(30%)・行事への参加(20%)・提出物(20%)
オフィスアワー	毎週月曜日2時限(10:40~12:10) 毎週金曜日3時限(13:00~14:30)
学生へのメッセージ	<p>ゼミ担当の井上寛は、学生時代「障害者・高齢者の旅行」という研究テーマに出会い、一貫して観光を学び続けています。</p> <p>観光学はとにかく「実践」することが重要ですが、そのベースとなる社会科学を深く学ぶことも重要です。みなさんの今後の人生の中で、「私は大学で実践的に観光学を学んだ!」と堂々と語れるように、学生時代より観光学を学んできた先輩として、一緒に学び続けていきたいと思えます。</p> <p>その「実践」のためには、観光学ゼミナールでは、課題や研究に関して、自分たちで考え企画し、実践することを重視します。ゼミ行事も、受け身ではなく積極的に参加するようにしてください。</p>

授業計画			
第1回	前期オリエンテーション	第17回	後期オリエンテーション
第2回	未来の目標を語ろう	第18回	研究課題中間報告Ⅰ
第3回	観光学の復習1	第19回	研究課題中間報告Ⅱ
第4回	観光学の復習2	第20回	観光学の学術研究2-1
第5回	観光学の復習3	第21回	観光学の学術研究2-2
第6回	研究課題ディスカッション1-1	第22回	観光学の学術研究2-3
第7回	研究課題ディスカッション1-2	第23回	観光学の学術研究2-4
第8回	研究課題ディスカッション1-3	第24回	ふりかえりⅢ
第9回	研究課題ディスカッション1-4	第25回	研究課題ディスカッション2-1
第10回	ふりかえりⅠ	第26回	研究課題ディスカッション2-2
第11回	観光学の学術研究1-1	第27回	研究課題ディスカッション2-3
第12回	観光学の学術研究1-2	第28回	研究課題ディスカッション2-4
第13回	観光学の学術研究1-3	第29回	研究発表Ⅰ
第14回	観光学の学術研究1-4	第30回	研究発表Ⅱ
第15回	ふりかえりⅡ・反省会	第31回	ふりかえりⅢ・反省会
第16回	前期試験	第32回	後期試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅢ（情報システム管理論ゼミナールⅢ）		
	ゼミ担当者名	瀧森 威		
	科目分類	専門科目群（第1グループ）		
	開講年次	4年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日3限	単位数	2単位

ゼミのテーマ	最新の情報やIT技術を通して、その分野の基本的な資質を磨きます。
ゼミの概要	IT関連資格の取得に向けた知識と実技の習得と実践を行います。情報やITの技術動向、秋田県の諸問題の調査研究を行います。学生が社会人になるための基本的な資質を磨きます。
ゼミの到達目標	社会人としての自覚・良識・思考を身に付ける。情報リテラシー能力を身に付ける。
授業時間外の学習	情報やITの技術動向に対して絶えず関心を持って調査研究する。多くのソフトウェアを使いこなす。
履修条件	コンピュータ入門やコンピュータ利用技術Ⅰ、情報システム管理論ゼミナールⅠ・Ⅱを修得している学生が望ましい。
テキスト	情報やIT関連に関するプリント、資格取得のためのプリント
参考文献・資料	講義中に適宜紹介します。ITパスポート関連、日商PC検定関連、MS検定関連資料。
成績評価の方法	講義中に実施する実践的課題50%（知識問題・実技問題・レポート）、試験50%により判断します。課題は必ず提出することが前提。出席回数が規定に満たない場合は試験をうけることができません。出席確認時不在だった場合は原則としてその回は欠席とします。授業中に無許可で退出した場合は欠席とします。
オフィスアワー	毎週 月曜日 16:10～17:50 金曜日 10:40～12:10 これ以外の時間帯は必ず事前に予約してください。
学生へのメッセージ	大きな仕事をやりとげた人達からの教え等、学生たちがこれからの進路や人生をどのように歩んでいくべきか、今一度学生の皆さんと一緒に考えましょう。また、IT関連資格取得を目標にしましょう。

授業計画			
第1回	ゼミナールの概論	第17回	基本情報処理技術者試験 プログラミング科目対策問題1と解説 個人各テーマ改善・改良
第2回	最新情報・IT技術、秋田県諸問題のための調査 研究概要（個人テーマ決め）	第18回	基本情報処理技術者試験 プログラミング科目対策問題2と解説 個人各テーマ改善・改良
第3回	個人テーマ概要作成、テーマ確定	第19回	基本情報処理技術者試験 プログラミング科目対策問題3と解説 個人各テーマ本番発表準備
第4回	情報処理技術の応用実践的知識の習得① （情報セキュリティ管理と技術、資産とリスク） 個人各テーマ調査・研究	第20回	基本情報処理技術者試験 プログラミング科目対策問題4と解説 個人各テーマ本番発表準備
第5回	情報処理技術の応用実践的知識の習得② （情報セキュリティに関する知識問題確認） 個人各テーマ調査・研究	第21回	基本情報処理技術者試験 プログラミング科目対策問題5と解説 個人各テーマ本番発表準備
第6回	情報処理技術の応用実践的知識の習得③ （システム開発概要、ソフトウェア開発手法） 個人各テーマ調査・研究	第22回	ゼミ内各研究発表会
第7回	情報処理技術の応用実践的知識の習得④ （ITに関わるマネジメント） 個人各テーマ調査・研究	第23回	ゼミ内各研究発表会
第8回	情報処理技術の応用実践的知識の習得⑤ （ITに関わるマネジメントの知識問題確認） 個人各テーマ調査・研究	第24回	情報・IT技術、秋田県の諸問題等 各論文作成
第9回	情報処理技術の応用実践的知識の習得⑥ （ITに関わるマネジメントの知識問題確認） 個人各テーマ中間発表準備	第25回	情報・IT技術、秋田県の諸問題等 各論文作成
第10回	ITパスポート関連知識問題確認 個人各テーマ中間発表準備	第26回	情報・IT技術、秋田県の諸問題等 各論文作成
第11回	日商PC検定実技試験（文書作成）模擬試験 個人各テーマ中間発表準備	第27回	情報・IT技術、秋田県の諸問題等 各論文作成
第12回	日商PC検定実技試験（データ活用）模擬試験 個人各テーマ中間発表準備	第28回	情報・IT技術、秋田県の諸問題等 各論文提出・指導
第13回	日商PC検定実技試験（サイト作成）模擬試験 個人各テーマ中間発表準備	第29回	情報・IT技術、秋田県の諸問題等 各論文提出・指導
第14回	ゼミ内各研究中間発表会	第30回	情報・IT技術、秋田県の諸問題等 各論文提出・指導
第15回	ゼミ内各研究中間発表会	第31回	1年間の総括
第16回	前期定期試験	第32回	後期定期試験

	ゼミナール名	ゼミナール III (南北アメリカの国際関係論ゼミナール)		
	ゼミ担当者名	デファルコ・リーアアン		
	科目分類	専門科目群 (第1グループ)		
	開講年次	4年次	開講期間	通年
	開講時限	金曜日 2限	単位数	2単位

ゼミのテーマ	Understanding Your World (Let's go the Americas!)
ゼミの概要	<p>下記のテーマについて日本語と英語で授業を行います。研究の範囲は一般的な理論実例にまでおよびます。複雑な考えを優しく発表します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 国際システムを理解するために様々な国際関係の理論を学びます。例えば) 現実主義、リベラリズム、社会構成主義。 2. 「ジョン・ロック」「ジャンージャック・ルソー」「ニコロ・マキャヴェッリ」等の引用献を輪読します。 3. 「自由」と「正義」のようなテーマについて議論します。 4. 南北アメリカの地理・歴史・政治等を学びます。興味を持っている国を選択し、レポートの提出を求めます。
ゼミの到達目標	<p>国際関係と南北アメリカに対する理解を広げることができる 国の行動を的確に分析できるようになる 政治と国際関係に対して、偉大な思想家の考えを要約できるようになる 就職活動の面接のために会話と批判的なスキルを磨くことができる</p>
授業時間外の学習	読書課題とレポート
履修条件	英検準二級 (トイック 500 点) レベルの英語能力が必要です。
テキスト	なし、資料を配布する
参考文献・資料	『リヴァイアサン』トマス・ホッブズ、『統治二論』ジョン・ロック等
成績評価の方法	英語で表現すること 20%、読書を完成されて議論できること 30%、レポート 30%、試験 20%
オフィスアワー	毎日の 5 時限目
学生へのメッセージ	南北アメリカの歴史・文化に触れながら、南北アメリカの国際関係を学ぼう！

授業計画			
第1回	Seminar overview and explanation. Self-introduction. Personal goals and targets interview.	第17回	Update on studies, personal report
第2回	America map challenge!① Learning the countries in the Americas! How many American countries do you know?	第18回	The 3 main theories of international relations: Theory 2 - Liberalism ①
第3回	America map challenge!② The politics and history of North American countries	第19回	The 3 main theories of international relations: Theory 2 - Liberalism ②
第4回	America map challenge!③ The politics and history of South American countries ①	第20回	The 3 main theories of international relations: Theory 3 - Constructivism ①
第5回	America map challenge!④ The politics and history of South American countries ②	第21回	The 3 main theories of international relations: Theory 3 - Constructivism ②
第6回	Update on studies, personal report	第22回	Update on studies, personal reports
第7回	America map challenge!④ Discussing social contract theory: Hobbs①	第23回	Review and comparison of the 3 theories, discussion. Relevance to the Americas.
第8回	America map challenge!⑤ Discussing social contract theory: Hobbs②	第24回	On Freedom: What is freedom? Discussion
第9回	America Map Test Discussing social contract theory: Locke①	第25回	On Liberty: John Locke Discuss John Locke's famous work
第10回	Discussing social contract theory: Locke②	第26回	Update on studies, personal report
第11回	Update on studies, personal report	第27回	Machiavelli: How to be a prince Discussing Machiavelli's famous work
第12回	Discussing social contract theory: Rousseau	第28回	Machiavelli: How to be a prince Discussing Machiavelli's famous work
第13回	A world without a king? Applying social contract theory to the Americas and international relations	第29回	レポート準備
第14回	The 3 main theories of international relations: Theory 1 - Realism ①	第30回	レポート準備、発表
第15回	The 3 main theories of international relations: Theory 1 - Realism ②	第31回	レポート発表
第16回	中間テスト	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅢ (表現文化ゼミナール)		
	ゼミ担当者名	橋元志保		
	科目分類	専門科目群 (第1グループ)		
	開講年次	4年次	開講期間	通年
	開講時限	金曜日2限	単位数	2単位

ゼミのテーマ	大学生にふさわしい教養を身につけるために、様々な国々の表現文化（文学表現・音楽表現・映像表現他）に触れ、深く理解し、表現する力を涵養する。
ゼミの概要	文学のみならず、様々な国々の表現文化（文学表現・絵画表現・音楽表現・映像表現他）に触れることで初めて、豊かな教養を身につけることができるだろう。本ゼミナールでは、日本や欧米の文学を題材に、小説や論理的な文章を楽しみながら読むことのできる、読解力を養いながら、音楽や絵画、映像といった表現文化に触れ、大学生にふさわしい教養を身につけることを目的とする。いくら専門的な知識を身につけても、精神的な成長を促す様々な文化に触れなければ、深い思考力や判断力は得られず、国際的に活躍する有為の人材となることは難しい。「博学の人は、常に自分自身の中に富を持っている」とギリシアの格言にもあるように、ぜひ大学生のうちに将来に役立つ精神的な富をしっかりと培ってほしいと考えている。
ゼミの到達目標	西洋及び日本の文化、名著に触れ、それを深く理解し、自分の考えを表現することができる。
授業時間外の学習	1. 授業で取り上げる小説や資料を、指定された頁まで必ず読んでおきましょう。難解な語句や漢字は必ず辞書でその意味を調べましょう。 2. 毎回課題プリントを配布しますので、授業内容を復習しながら記述し、提出してください。
履修条件	「文章の読み方」「小論文の書き方」「日本の文学」「福祉と文学」「旅と文学」のいずれかを履修し、単位を修得していることが望ましい。
テキスト	授業の際に、資料を配布する。
参考文献・資料	加藤周一『日本 その心とかたち』（徳間書店）・トインビー著 長谷川松治訳『世界の名著 61 歴史の研究』（中央公論社）・夏目漱石『漱石全集』第5巻（岩波書店）・シェイクスピア著 中野好夫ほか訳『筑摩世界文学大系 16 シェイクスピアⅠ』（筑摩書房）ユゴー著 井上究一郎訳『世界文学全集 9 レ・ミゼラブルⅠ』（河出書房新社）ほか
成績評価の方法	【主体的な学びの姿勢（25%）、課題の提出（25%）、試験（50%）】の総合評価とします。 ① 出席回数が規定に満たない場合は、試験を受けることが出来ません。 ② 講義中に無許可で退出した場合は欠席とします。 ③ 出席確認時に不在だった場合、原則としてその回は欠席とします。 【成績評価の基準】 優（100～80点）、良（79～70点）、可（69～60点）、不可（59～0点）
オフィスアワー	火曜日 14:40～16:10 木曜日 14:40～16:10 ※これ以外の時間帯は事前に予約してください。
学生へのメッセージ	優れた小説や評論を味読することで、読解力や思考力を養い、総合的な国語力を向上させることができます。また、例えば『レ・ミゼラブル』等は、素晴らしい映像や音楽に触れながら、楽しく学んでいきます。国語が苦手な人、教養を身につけたい人、公務員を目指している人には、特にお勧めです。

授業計画			
第1回	表現文化とは何か 文学表現・音楽表現・映像表現について	第17回	文化とは何か 梅原 猛『日本文化論』を読む
第2回	日本文化の源流 加藤周一『日本その心とかたち』を読む①	第18回	日本の文化と西洋文明 トインビー『歴史の研究』を読む
第3回	日本文化の源流 加藤周一『日本その心とかたち』を読む②	第19回	西洋文明の源流 ホメロス『イーリアス』を読む
第4回	小説とは何か 近代小説・詩歌の成立と西洋の影響	第20回	西洋文明の源流 ホメロス『イーリアス』とトロイ戦争
第5回	上京する物語 夏目漱石『三四郎』を読む①	第21回	西洋文明の源流 ホメロス『オデュッセイア』を読む
第6回	ストーリー・プロットとは何か 夏目漱石『三四郎』を読む②	第22回	欧米文学の名著 ダンテ『神曲』を読む①
第7回	近代教育と青年像 夏目漱石『三四郎』を読む③	第23回	欧米文学の名著 ダンテ『神曲』を読む②
第8回	西洋絵画と文学 夏目漱石『三四郎』を読む④	第24回	欧米文学の名著 シェイクスピア『ジュリアス・シーザー』①
第9回	漂泊の文学 菊地 寛『恩讐の彼方に』を読む①	第25回	欧米文学の名著 シェイクスピア『ジュリアス・シーザー』②
第10回	漂泊の文学 菊地 寛『恩讐の彼方に』を読む②	第26回	欧米文学の名著 ヴィクトル・ユゴー『レ・ミゼラブル』を読む①
第11回	漂泊の文学 菊地 寛『俊寛』を読む①	第27回	欧米文学の名著 ヴィクトル・ユゴー『レ・ミゼラブル』を読む②
第12回	旅と文学 和辻哲郎『古寺巡礼』を読む	第28回	欧米文学の名著 ヴィクトル・ユゴー『レ・ミゼラブル』を読む③
第13回	旅と文学 和辻哲郎『イタリア古寺巡礼』を読む	第29回	音楽表現と思想 ベートヴェンの生涯と音楽
第14回	現代文学と戦後 百田尚樹『海賊と呼ばれた男』を読む①	第30回	音楽表現と思想 ベートヴェンの手紙と音楽
第15回	現代文学と戦後 百田尚樹『海賊と呼ばれた男』を読む②	第31回	総括 世界の中の日本文学
第16回	前期試験	第32回	後期試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅢ (キャリアプランニングⅢ)		
	ゼミ担当者名	横田 恵三郎		
	科目分類	専門科目群 (第1グループ)		
	開講年次	4年次	開講期間	通年
	開講時限	金曜日2限	単位数	2単位

ゼミのテーマ	キャリアプランニングの考え方と重要性を理解し、卒業後観光企業で職務経歴を蓄積していく中、その手法の実践について考える。
ゼミの概要	終身雇用制度が定着していた時代、個人のキャリアは会社の人事に左右されていたと言って過言ではない。しかし、バブル経済が崩壊して以降その制度は崩れ、雇用体系が多様化し、会社がキャリアを与えてくれることが普通ではなくなり、昨今ではさらにそれが加速されてきている。今や自分で自分のキャリアを築いていかなければならない時代となった。このゼミでは充実した幸せな仕事や人生を送るためにキャリア・プランニングの概念を学び、これまでの人生を振り返りつつ実際に目標と計画を立ててみることを考えている。前期ではキャリアの入り口である観光企業でのビジネスマナー等基礎的な能力や態度の涵養に軸足を置き、後期では自身の進路である観光企業ならびにその業界の状況や将来を調査、研究し、その中でキャリアプランニングが出来るようチャレンジしてみる。
ゼミの到達目標	社会に巣立つにあたって基礎的なビジネスのルールやマナー等を会得し、スムーズにキャリアの蓄積が開始できる状態にする。また進路先企業・業界の動向を把握し、将来が展望できること。
授業時間外の学習	進路先観光企業やその業界について日々情報の収集にあたること。
履修条件	ホテル、旅行会社、航空会社、鉄道会社等の観光系企業に進路を定め、現に就職活動を行なっている4年生
テキスト	その都度プリントを配付する。
参考文献・資料	その都度案内する。
成績評価の方法	定期試験 50%、取組姿勢 50%とし総合的に評価する。
オフィスアワー	火曜日午前中、木曜日午前中
学生へのメッセージ	ホテル、旅館、旅行会社、鉄道会社、航空会社等の観光企業に進路を定めた学生の皆さん、いま不安や心配を抱えながら就職活動にあたっていることと思います。ただ、就職することが目標ではなく、節目の出発点であるに過ぎません。キャリアつまり仕事に焦点を当てた人生の始まりです。キャリアの入り口にあたり、観光企業での基本的なビジネスのルールやマナーについては是非会得して社会に巣立って下さい。

授業計画			
第1回	オリエンテーション① (トライアル参加) キャリアプランニングとは	第17回	キャリアプランニングの重要性
第2回	オリエンテーション②(トライアル参加) キャリアプランニングとは	第18回	キャリアプランニングの方法
第3回	自己紹介 個人面談	第19回	人生の振り返り
第4回	キャリアの入口にあたって① ES	第20回	自分の望みを知る、理想の人生設計
第5回	キャリアの入口にあたって② 個人面接演習 a	第21回	観光企業担当者の講演①
第6回	キャリアの入口にあたって③ 個人面接演習 b	第22回	観光企業担当者の講演②
第7回	キャリアの入口にあたって④ 敬語の使い方	第23回	講演①講演②に基づくディスカッション
第8回	キャリアの入口にあたって⑤ グループ面接演習 a	第24回	就職先業界の深掘り調査と研究①
第9回	キャリアの入口にあたって⑥ グループ面接演習 b	第25回	就職先業界の深掘り調査と研究② 報告会
第10回	キャリアの入口にあたって⑦ ビジネスマナー a	第26回	就職先業界の深掘り調査と研究③ 報告会
第11回	キャリアの入口にあたって⑧ ビジネスマナー b	第27回	就職先業界の深掘り調査と研究④ 報告会
第12回	キャリアの入口にあたって⑨ 接客の五原則	第28回	キャリアの入口にあたって⑫ ビジネス文書、ビジネスメールの基礎
第13回	キャリアの入口にあたって⑩ グループワーク a	第29回	観光企業の現場を想定したケーススタディー①
第14回	キャリアの入口にあたって⑪ グループワーク b	第30回	観光企業の現場を想定したケーススタディー②
第15回	まとめ	第31回	まとめ
第16回	前期定期試験	第32回	後期定期試験